

カンカネ沢右俣

昭和五 年 八月八日
一九八六年八月八日

カンカネ沢左俣終了後、右俣の下降に入る。右俣上部は、伐採跡地で、ヤブが相当にひどい状態であった。かつての踏跡にそってヤブをこぎ、源頭に降り立つ。

左岸から小沢をいくつか合わせる、沢床はナメとなる。きれいなナメである。沢が急になり、ナメが切れるところは、八回程の段差となつて、左にカーブする。左岸のブッシュを利用して下る。

次に、上部がナメとなっている二〇回程の滝にぶつかる。ここから先は、スケールは小さいが、V字状のゴルジュとなっている。立木につか

まったり、足を大きく開いたりして通過する。

右俣の核心部はここまでで、あとはさして変化もなく、支沢を合わせ

カンカネ沢左俣

一九八六年八月八日

大雨の影響で、烏川、中津川の両林道とも車は通れない状態。ゲートに車を置き、歩いて入渓する。

遡行を開始するとすぐ、一二回程の滝。逆層の滝である。左より捲くと、踏跡に出た。

ながら、左俣との出合に到着する。ここまでの所要時間は、約一時間であった。

左俣出合から中津川林道までは、作業用歩道跡を歩いて、一五分程であった。

〔タイム〕 下降開始(一一:五〇)↓左俣出合(一二:五〇)↓中津川林道(二三:一〇)

再び沢に戻る。二俣までは、小滝やナメが断続して、結構楽しめた。

二俣到着、一〇時四〇分。左俣に入る。

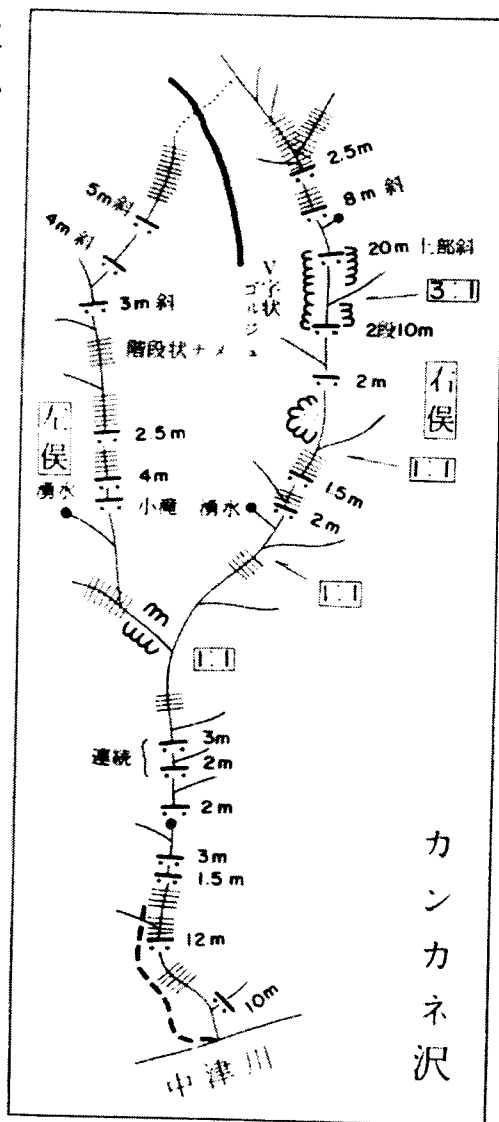
左俣は、両側よりヤブがかぶさるまで、滝とナメが断続する。しかし、

むずかしい滝はなく、すべて直登できる。沢の所々には、土砂が新しく流入している。また、大きく削り取られた箇所もあって、この間の大雨の影響が生々しく残っていた。

源頭のヤブこぎは、それほど苦労することなく尾根に出る。ブナの倒木に腰かけ、昼食。あとは伐採地を横切るようにして右俣の下降に移る。

(記・ラテ)

「タイム」 カンカネ沢出合(一〇:〇〇)



五) ↓二俣(一〇:四〇) ↓尾根(一一:二五)

カンカネ沢



ウォータークライミング
 沢登りの一分野にウォータークライミングがある。最近は、特に愛好者が多くなってきて、冬でさえも泳いで遡行するものが出てきている。

沢登りの技術ではなるべく水に濡れないように体力を使わないように遡行する方が良しとするが、沢の本来の姿である水に親しむ事を考える時、このウォータークライミングの素晴らしさを認めざるをえない。

私は敢えて言わしてもらおう。古き沢屋よウォータークライミングで新しい沢登りの魅力を感じようではないかと。